

SAWATAウッドデザイン大賞

山口大学 工学部 感性デザイン工学科 中原陸さん



2025年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート				
学校名	山口大学			
学科・学年	感性デザイン工学科4年			
応募者氏名	ふりがな	なかはら	りく	
	氏名	中原	陸	
作品タイトル	山のシルエット			
コンセプト	防府の山々の稜線をCLTにかたどり、これをシルエットと呼ぶ。このシルエットで空間を構成する。シルエットは平均台のように歩いて遊ぶことも、寝転がって読書することもできる。山を駆け上がったあとに腰掛けて休む場となり、ときに額縁のように憩いの広場の景色を切り取る。山のかたちと身体が重なり合う「パノラマ的体験」を通じて、人は山をより身近に感じる。その感覚が森林の活性化や木材利用推進への意識へと自然につながっていく。			
アピールポイント	山の形をCLTに転写させ、その線にそって切断することで、山のシルエットが浮かび上がる。そのCLTは人々の居場所として心地よいコネクティングスペースを構成する。それはCLTと人をより近づけることである。CLTを通して山と人がひとつづきに一体となる体験を提供できる空間である。また、CLTの規格を守りながら、心地よい空間を実現し、構造特性も考慮した構造計画となっている。			

SAWATAウッドデザイン社長賞

山口大学 工学部感性デザイン工学科 高津莉桜さん 戸田真央さん



1 二つの輪がつながり

憩いの広場を「二つの輪」に分ける
輪が広がり、人・自然・まちが緩やかにつながる場へ
自然とつながる輪
まちに開かれた輪
敷地（憩いの広場）

2 景観を守る和の空間

防府や桑山には、和を感じる空間が多く点在している
そこで、現代風にアレンジしながら、コネクトスペースにふさわしい和の要素を取り入れた提案を行う



3 多様な居場所で生まれる会話

多様な居場所が仕切られず繋がる空間で世代を超えた会話が生まれる

わで繋がるコネクトスペース

桑山を訪れたとき、展望台で地域の方々が“わ”になって語らう姿を見つけた。その小さな“わ”が広がれば、世代を超えて人と人につながる場になると感じた。そこで「輪・和・話」をテーマに、自然とまちと人をつなぐ空間を提案する。

CLTを利用した屋根

屋根は
ひし形のモジュールサイズを重ね合わせて統一サイズを描えることで無駄なく使い施工も効率的



△重なりをずらすことで木漏れ日を再現

平面図 (S=1:350)

木を利用した柱・床
ネット
元からある岩
Drop E (岩型ベンチ)
間伐材の丸太ベンチ

2025年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート				
学校名	山口大学			
学科・学年	工学部感性デザイン工学科3年			
応募者氏名	ふりがな	こうづ りお	とだ まお	
	氏名	高津 莉桜	戸田 真央	
作品タイトル	大きな木の下で -3つの広がる“わ”-			
コンセプト	私たちが設計の着想を得たのは、桑山を訪れたときの体験です。展望台で四人の男性が“わ”になって語らう姿を見かけ、その光景から小さな“わ”がもっと広がれば、世代を超えて人と人につながる場になるのではないかと感じました。そこで「輪・和・話」の三つの“わ”をテーマに、自然とまちと人をつなぐ空間を提案します。 「輪」は、人々が集まり、つながりを広げる場を表しています。二つの輪で構成した広場から、人と自然、まちとが緩やかにつながります。 「和」は、桑山の景観に調和し、地域性を大切にする姿勢を示しています。CLTを利用した屋根や間伐材の活用により、環境負荷を抑えながら、現代的なアレンジを加えました。 「話」は、多様な居場所から生まれる交流を意味します。丸太ベンチや岩型のベンチ、芝生やネットの上など、世代を問わず会話が生まれる仕掛けを散りばめました。 この三つの“わ”を重ねることで、自然とまちをつなぎ、人と人の新たな交流を育むコネクトスペースを実現します。			
アピールポイント	1. 木漏れ日のようなCLTの屋根 CLTパネルをひし形に組み合わせ、少しずつ重ねることで木漏れ日のような光をつくり出します。光と影が時間や季節によって変化し、訪れる人に自然のリズムを感じてもらえる空間になります。木材ならではの温かさと、光が織りなす表情を楽しめる場所です。 2. 多世代が過ごせる多様な居場所 子どもはネットや岩型ベンチで体を動かしながら遊んだり休んだりし、大人は縁側のように腰を下ろせるCLT床や丸太ベンチでくつろぎます。どの世代も自分に合った居場所を見つけられるように工夫し、互いに視線が交わることで自然に会話や交流が生まれる空間を目指しています。 3. “わ”でつながる動線 全体を円形に配置することで、森に包まれる静かな空間と、まちを見渡せる開放的な空間が緩やかにつながります。どこからでも気軽に入れる動線とすることで、多様な人が入りやすく、滞在しやすい「開かれた場」となります。人と人、自然とまちがにつながる“わ”の広がりを体験できる空間です。			

SAWATAウッドデザイン建築士賞

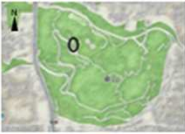
徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 川元花菜さん



1.コンセプト

「光・風・四季を抱き込み、山と共生する憩いの場」
中心に一本の落葉樹を据え、四季の変化を直接感じられる空間としました。木材を円形に積み重ね、光や風が通り抜けることで自然と連続した開放感を生み、座る場所によって景観も変化します。自然と建築、人々の集いが重なり合うことで、桑山に新たな憩いと交流の場を提供します。

2.敷地

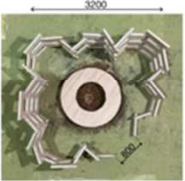


4.CLTの構成方法

用いるCLT板の寸法はすべて同一とする。
一方の木材(①)には欠き込みを設け、もう一方はそのままの長方形(②)とする。



3.平面図



欠き込み部分を噛み合わせて積み重ねることで、両端が確実に固定され、構造的に安定する。
複雑な仕口や金物に頼らず、施工性に優れた構造体ができる。

-曲線のベンチ-
自由な曲線を加工可能なCLTにより、大スパンのドーナツ型のベンチが施工可能。星形の下部構造で荷重を支えることで、少ない材料でも安定感のあるデザイン。



2025年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート

学校名	徳山工業高等専門学校		
学科・学年	土木建築工学科5年		
応募者氏名	ふりがな	かわもと はな	
	氏名	川元 花菜	
作品タイトル	重なるの輪		
コンセプト	本作品のコンセプトは「光・風・四季を抱き込み、山と共生する憩いの場」です。桑山の自然環境に寄り添い、建築でありながら自然の延長線上に存在する休憩所を目指しました。中心には一本の落葉樹を据え、訪れる人が四季の変化を直接体験できるようにしています。春には桜の花を楽しみ、夏には葉が日差しを遮って木陰をつくり、秋には紅葉を眺め、冬には落葉してやわらかな光を内部に届けます。一本の木が建築の「心」として人々を迎え、季節の移ろいを感じさせてくれます。 空間は木材を円形に積み重ねて構成し、包まれる安心感と同時に、開放感のある空間となっています。重ねた木材の隙間から光や風が通り抜け、閉ざされた内部空間ではなく自然と連続する空間が広がります。また、座る場所によって防府の街並みや山の景観を異なる角度から楽しむことができ、訪れるたびに新しい風景に出会えます。 この休憩所は、自然と共に変化し、光や風、季節の豊かさを取り込みながら、人々にやすらぎを与える場として機能します。建築と自然の境界をあいまいにし、山の一部として存在することで、新しい憩いの場を提供できます。 木が重なるこの空間に人が集まりコミュニティが重なっていくという未来が期待されます。		
アピールポイント	本作品の大きな特徴は、CLTの長さ方向に優れた強度を活かし、CLTを円形に積み重ねた構造方法です。用いる木材の寸法はすべて同一とし、加工はシンプルにまとめました。一方の木材には欠き込みを設け、もう一方はそのままの長方形とします。欠き込み部分を噛み合わせながら積み重ねることで、両端が確実に固定され、構造的に高い安定性を実現できます。この方法により、複雑な仕口や金物に頼らず、施工性に優れた合理的な構造体となります。 さらに、この積層は単に力学的な安定を確保するだけでなく、デザイン性にも直結しています。木材の高さを部分的に変化させることで、山並みが連なるようなリズムが生まれ、建築が周囲の山の延長であるかのように感じられます。また、積み重ねによって生じる隙間からは光や風が通り抜け、閉ざされた空間ではなく自然とつながる開放感を感じることが出来ます。 加えて、中心に配置されたドーナツ型のベンチも、自由な曲線を加工できるというCLTの特性を活かし、星形の下部構造で荷重を支えることで、少ない材料でも安定感のあるデザインとしました。 このように、CLTの合理的な加工性と強度を活かしながら、構造の安定性と造形の美しさを両立させた点が、本作品の大きな魅力です。		

SAWATAウッドデザイン建築士賞

山口大学 工学部 感性デザイン工学科 本多隼人さん 吉中悠真さん 西村天汰さん

CLTコモンズ

本計画は、桑山の広大な自然を舞台に、集成材を活用したホステルとワークショップを組み合わせた施設を提案する。訪れる人々は、「泊まる」「つくる」「交流する」という3つの体験をすることができる。CLTを用いたホステルは滞在する場を提供し、ワークショップは地域住民と来訪者が集い、互いに学びあう場を提供する。景観の開放性とCLTの可能性を重ね合わせることで、この場所は「人」「素材」「地域」をつなぐ新たな拠点となる。



■ホステルによるコネクト

桑山を単なる訪問や利用のための場所としてだけでなく「泊まる場所」として開放することで、早朝や夜の自然を体験するとともに、桑山公園内の桜のライトアップなどのイベントにも気軽に参加できるようになる。さらに、既存のBBQ設備を利用することで、より快適に過ごすことができる。

■ワークショップによるコネクト

CLTを用いた家具を自らの手で作り上げるといったワークショップを開催する。写真立てや棚など、参加者の要望に応じた大きさの家具を作り上げることで、ホステルの宿泊者と地元の方々（家族連れなど）との間に交流が生まれることを狙う。



■ホステル×ワークショップ

ホステルとワークショップを掛け合わせることで、地域住民だけでなく、遠方からの宿泊者もワークショップに参加することができる。また、ワークショップの成果をロビーや共有部に置けば、利用者がCLTの魅力を感じることができる。さらに、ホステルに泊まりながら家具製作をすることで、数日にわたり大型の家具の製作にも挑戦することができる。

■CLTを使用したDIYプランの例



■ホステルでの一日の例



2025年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート

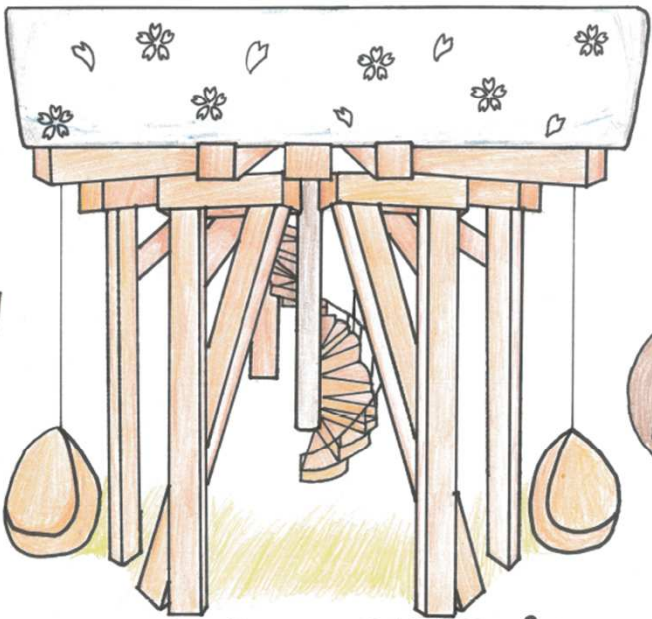
学校名	山口大学			
学科・学年	感性デザイン工学科・3年			
応募者氏名	ふりがな	ほんだはやと	よしなかゆうま	にしむらそうた
	氏名	本多隼人	吉中悠真	西村天汰
作品タイトル				
コンセプト	この施設のコンセプトは、「木を介して人と地域をつなぐこと」である。防府市の山の上という開かれた場所に、ホステルとワークショップを併設した。ホステルでは木の空間に宿泊することによる「滞在体験」を、ワークショップではCLTを用いた家具をつくる「創造体験」を提供する。この二つの活動が重なり合うことで、外から訪れる人と地域の人が自然に交わり、学びや交流を共有できる場となることを目指した。CLTはひき板を積層接着したパネルであり、高い強度を備えている。再生可能な木材を活用することで環境にも配慮した材料である。また、加工性に優れ、特徴的な木目は空間に温もりを与え、高いデザイン性をもたらしている。			
アピールポイント	ホステルは、外からの人を呼び込み、ワークショップは地域の人々が集まる場となる。両者を一体化することで、日常的には交わらない人々が木を介して出会い、学び、繋がる機会を作り出す。また、ホステルは、木の空間で過ごす体験、ワークショップは木を使う体験を提供し、CLTの魅力が多面的に体感できる場となる。CLT合板の耐久性を生かし大スパンの屋根を支え、動線に沿って配置することによりCLTのもつ美しさを強調した。ホステルとワークショップを貫く屋根には緩やかな傾斜を持たせることで自然光を取り入れ、快適で開放的な空間とした。ワークショップスペースの一部のみに屋根がかかる構成とし、日陰にいなから風や木の温もりを感じ、家具作りの体験をすることを可能にした。			

SAWATAウッドデザイン新人賞

山口県立柳井商工高等学校 建築・電子科 建築コース 立脇悠羽さん

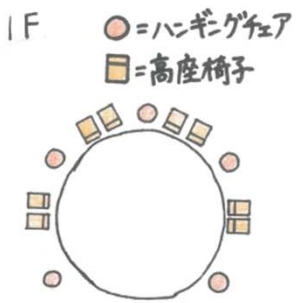
コンセプト
老若男女関係なく人々が集い
交流し心を休めることが
できる大きな桜の木

人と自然の温もりが
つまった憩いの木



〜集成材〜
自然な木の質感
を演出でき周りの
自然との調和
ができる
変形リスクが少
ないため長期
使用可能に

〜CLT材〜
高い強度と耐震性
をいかし構造体
に使用



子供から高齢者までが
利用しやすい椅子を設置して
1人でも桜や景色を楽しめる
ようにした



桜が見やすいように安全性を考慮
シリコンガラスにした
桜を囲むことで1つ大きな桜の
ようにした

〜卵型ハンギングチェア〜
リゾートに演出する
ことができる
1人の空間をつくる
ことができる

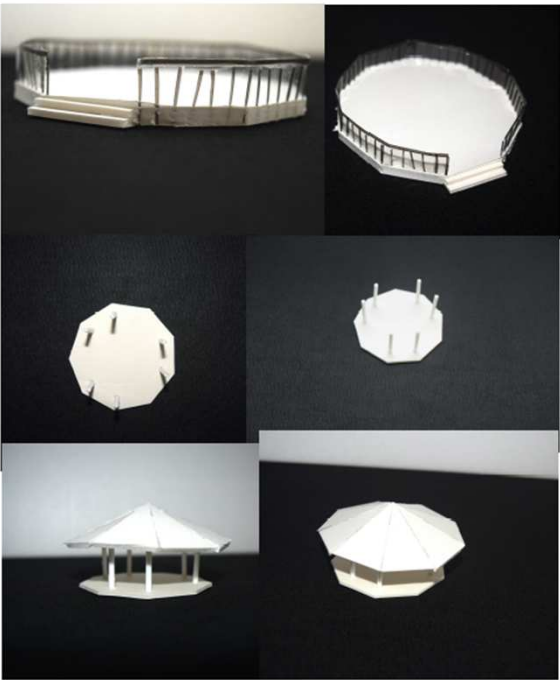
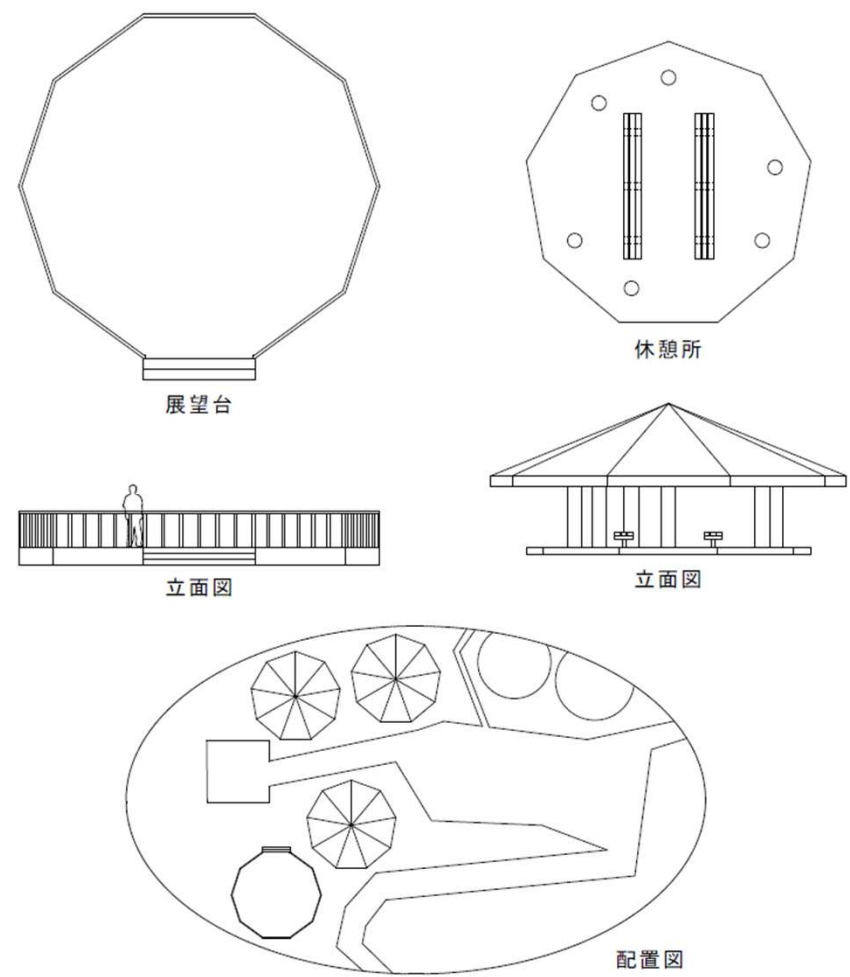
1年を通して人が集まる場所へ！
3月下旬〜4月下旬
(桜が咲く時期)
花見をするために人
が集まる
1年
休憩所や地元
の人々の交流の
場となり人が集まる

2025年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート

学校名	山口県立柳井商工高等学校			
学科・学年	建築・電子科 建築コース 3年			
応募者氏名	ふりがな	たてわき	はると	
	氏名	立脇	悠羽	
作品タイトル	人と自然の温もりがつまった憩いの木			
コンセプト	「老若男女関係なく人々が集い交流し心を休めることができる大きな桜の木」 桑山の桜を活かした花見スポットと心休まる場所の融合を目指した新しい憩いの場を 提案します。この場所が四季を通じて多くの人々が集まる場となることを目的とします。			
アピールポイント	1 集成材とCLT材の活用 長期使用を目的として集成材の高い強度と耐久性を活かし、高座椅子とベンチに使用 しました。温もりと安心感を与える建築物にするためにコンクリートに匹敵する強度をもち周 りの環境との調和が可能なCLT材を使用しました。 2 1階の工夫 1階は1人でも桜や景色を楽しめるよう個人空間として設計し、ハンギングチェアと高座椅子 を一定間隔に設置しました。それぞれの椅子は子供から高齢者までが利用しやすい 形にし、桜が見えやすい場所に設置しました。 3 2階の工夫 2階は大人数で花見を楽しんだり、交流の場となるようベンチを複数設置しました。2階を設 置することで桜と同じ高さで桜を楽しむことができる新感覚の花見を体験できます。 また安全性の高いシリコンガラスで囲むことで割れる可能性が低く安心して景色を楽しむこ とができます。桜の花びらを模様として彫り込むことにより桑山の象徴となるような1つの大きな 桜の木を表現しました。 4 卵型ハンギングチェア 卵型ハンギングチェアはリゾートに演出することができ、さらに1人の空間をつくることので きるため個人の空間を実現しました。子供の興味を引くデザインであり設置高さを低く することで子供だけでなく、高齢者も座りやすくなりました。			

SAWATAウッドデザイン新人賞

山口県立下関工科高等学校 建設工学科 建築コース 福重翔駿さん



2025年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート			
学校名	山口県立下関工科高等学校		
学科・学年	建設工学科 建築コース 3年		
応募者氏名	ふりがな	ふくしげ しょうま	
	氏名	福重 翔駿	
作品タイトル	桑山コネクトスペース		
コンセプト	土台が九角形の休憩所と十角形の展望台を作りました。休憩所は公園利用者が涼しく過ごせるように屋根を設けました。展望台は開放感を出すために床が広くなるように設計しました。		
アピールポイント	木造の休憩所と展望台を作りました。木造にすることで自然と調和した外観になります。休憩所を複数、設けることで訪れた多くの人に遠慮なく利用できるようにします。展望台は町を見下ろせる場所に設置しました。		